（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	医療法人社団　松涛会	代表者	理事長　　斎藤　正樹
事業所名	小規模多機能くるみの家	管理者	金坂　明美

法人・事業所の特徴	法人は病院を中心として、地域の拠点となるべく、医療・介護・福祉が一体となり、多岐にわたり複数の施設を運営している。「地域の中でゆったりとその人らしくいきいきと　楽しく　自由に　ありのままに」を理念に利用者様の気持ちに向き合い寄り添いながら支援することを大切にご利用者にその人らしい自由で楽しい生活をしていただけるよう、介護を通して支え、地域に密着したサービスの向上を心がけております。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	1人	1人	人	4人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認			・書式・内容が地域性に沿っていないものもあり、一般人にはわかりにくく事業所に不相応な項目もあるように思えた。 ・初めての取組の為、チェック項目と結びつける事や職員の理解にばらつきが見られた。	それぞれの項目ごとの改善計画を実施するとともに　毎月の職員会議の場での評価項目の振り返りを行い　職員自身が理解出来るように話し合って行く。
B．事業所のしつらえ・環境			玄関は施錠されていないのに、「施錠中です。インターホーンを鳴らして下さい」と掲示しているのは何故か？	有料老人ホームを併設している事で外部不審者対策としてインターホーンの利用を促しているが、掲示内容を変更し来客対応する。
C．事業所と地域のかかわり			・施設が沢山あることは知っているが、対象者や特徴等分からない為、説明する必要があるのではないか。 ・地域の行事・活動への参加や地域支援 会議との連動が必要だと思われる。	・地域の方やご家族の参加を呼びかけ、事業所の説明会や地域包括支援センターと連携を図り研修会を開催していく。 ・地域の行事やイベントに参加できるよう、自治会に再度働きかける。 ・地域包括会議を利用し、声にならない人の声を集約していく
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			自治会の会議内で福祉に関しての話は少ないが、行事等を知らせる事は可能である。	自治会にどの様に参加できるか、地域での役割や活動を利用者と一緒にできる事を検討していく。
E．運営推進会議を活かした取組み			・運営推進会議で情報の共有・意見交換がされている。 ・地域の７５歳以上の世帯は年々増加しており、地域の情報を共有していきたい。	・運営推進会議の議事録をご家族・職員が内覧できるよう工夫していく。 ・運営推進会議で情報交換を行い事業所として、地域での取組みに協働していく。
F．事業所の防災・災害対策			・消防団やご家族との協力のもと、避難訓練に取り組めている、このような機会に地域との連携も深めていけると良い。 ・防災計画は知らなかった。	・今後も訓練の反省や意見を踏まえる等して訓練を行っていく。 ・近隣の強力を得られる様、働きかけを行っていく。 ・防災計画を事業所の見やすい場所に設定する。